



浦島伝説

令和5年 4月28日

第 4 号

プロフェッショナル

「できることを継続する」

好きな言葉・・・・・・・・獅子奮迅
 今、一番欲しいもの・・・・車
 2023年の目標・・・・年間戦い抜ける体をつくる
 背番号・・・・・・・・51
 2022年ドラフト・・・・1位
 略歴・・・・・・・・高松商業一巨人



みなさんもきっと知っている巨人のドラフト1位・浅野翔吾外野手（18）のプロフィールです。

彼が高校1年生の時、坂出商業高等学校のグラウンドで行われた練習試合で初めて試合をしている姿を見ました。4番ライトで出場し、確かツーベース2本を打っていたと記憶しています。周りの先輩たちからも期待され、笑顔で楽しそうに野球をしていました。しかし、打てなかった打席では、表情や態度に出てチームの雰囲気悪くしていました。すぐに先輩がかけより、チームプレーについて、高松商業の野球部員であることについて話していたことを覚えています。2022年にドラフト1位で巨人に入団した浅野選手の様子は、今でもメディアやSNSなどで見る機会もあると思います。

先日、彼の語っていた言葉に次のようなのがありました。（11打数1安打と打撃不振だった時）

「状態が良くない中で、もっと工夫できると思っている。悪いなりにしっかりやっていきたいと考えています。」プロの球に対応するべく、早出と居残り練習でもバットを振り込んでいる。そんな中でも「浅野らしさ」も失っていない。

「調子の良くないときに態度や顔に出さないということは、高校時代に学んだことのひとつですし、常にチームのためにプレーしています。」4月16日の試合で三塁へのゴロを打った際に一塁へヘッドスライディング。執念を感じさせるプレーに観客からは拍手が起こった。

「できることを継続していきたい。」壁を打ち破るべく、鍛錬を重ねていく。と紹介されていました。

私が、練習試合で見たとき彼が学んでいたことをプロに入ってから意識し続けているんだと感じました。詫間中学校で日々学んでいることを意識し継続してこそ詫間中学校の生徒としてプロフェッショナルといえるのではないのでしょうか。「元気なあいさつの出来るプロの詫中生」、「自転車を揃えられるプロの詫中生」、「給食を早く取りに行くことが出来るプロの学級」、「靴の整頓が出来るプロの詫中生」、「授業に集中できるプロの学級」、「ボランティアに積極的なプロの詫中生」など詫間中学校には、たくさんのプロの中学生や学級があります。ちなみにプロの中学生を指導している詫間中学校の先生方も教師のプロがそろっています。何事も継続してこそ真のプロとなれるはずで、うまくいかないときにはプロの詫中生やプロの学級に聞いてみるのもいいですね。生徒と先生方が手を取り合って日本一のプロの中学校を目指してみませんか。このチームなら必ず出来る。そう信じてプロフェッショナルとしての日々を過ごしていきましょう。みんなとなら出来る！